

## 《通販よもやまばなし》

### 第5話 明治時代に起きた通販ブーム

通販の利用者は、インターネットによるネット通販の普及で一挙に日本中、いや世界中に広まりました。それはもはやブームと呼ぶような一過性のものではなく、人々の日常の暮らしの中にすっかり定着していますが、実は100年以上前の明治時代に、わが国で最初の通販ブームが起きたのです。それは、今の通販の隆盛がインターネットの出現と大きく関わっているのと同様、明治になって新たに導入された近代郵便制度によってもたらされたのです。国をあげての大プロジェクトとして発足した新たな郵便制度は、誰もが郵便物に切手を貼ってポストに投函するだけで、全国どこからでも、どこへでも、いつでも、早く、安く届くという、それまでの飛脚とはくらべものにならないくらい便利な仕組みと、当時の人たちは感じたものでした。しかも、郵便為替を使えば送金もできるというのですから、現代の私たちがインターネットを便利だと感じた以上に、万能の情報手段の出現と人々は受け止めたのです。この画期的なシステムを使ってビジネスをしようと思う人たちが現れるのもまた自然な流れと言えるでしょう。そこで明治時代に、メールオーダーによる最初の通販ブームが起きたのです。

明治4年(1871年)、新郵便制度がスタートし、この年に今の郵便ポストにあたる「書状集箱」が生まれ、翌年には全国に設置されました。当初、高さ123cmの木製の箱に書かれていた「郵便箱」の文字を「垂れ便箱」と読み違え、男性が用足するには高すぎて不便だなと思った人も多かったとか。郵便為替は明治8年(1875年)に始まっています。

郵便制度の発足・普及と同時に、それまでの木版刷りに代わり、活版印刷による新聞・雑誌などの出版文化も花開きました。そうした中、アメリカの農業事情を視察して来た津田仙という人が、帰国後「農業雑誌(誌名)」を発刊、明治9年(1876年)の第8号で通信販売による種苗の販売を始めたのです。これが、江戸の四ツ目屋を除けば、日本における近代通販の先駆けとされていますが、郵便制度の発足とほぼ同時期、米国のシアーズより早く、通販を実践した津田の先見性はたいしたものと言えます。

その後、郵便制度を活用したメールオーダーによる各種の通販が出現しますが、中でも津田に触発された多くの種苗会社が通販に乗り出し、明治20年代には種苗各社の発行する通販カタログ総数が年間300万部にも達したといえますから、当時の人口が4千万人台、経済規模を考えるとたいへんな数字です。では、種苗以外に明治時代の通販でどんな物が売られ、どんなビジネスが行われたのか、第6話でご紹介することにしましょう。